

エピソード

移動図書でお菓子づくりの本を借り、ジュースを凍らしてアイスをつくるページを見ていたAちゃんに①「おいしそうだね」と話し掛けると「うん」と頷いていました。近くにいたB・Cくんが「何がおいしそう？」と尋ね、Aちゃんの本を覗き込み「めっちゃ綺麗やしおいしそう」と話し、Bくんが作り方を読み始めました。Cくん「ジュースからこんなにきれいなアイスができるってこと？」Bくん「食べたくなってきたな、つくってみたい」と2人のやり取りを聞き、Aちゃんは何度も「うん、うん」と頷いていました。すると、Bくんが「色水遊びでつくった色水を使ってやってみるのはどう？」と、2人に尋ねました。Aちゃん「やってみたい」と答えると、Cくんが「いるものは、紙コップとアイスの棒がかいてる」と話し、「来週やってみよう」と3人で作り方を何度も確認していました。

休みが明け、Bくん「まず色水づくりからしよう」とCくんとパンジーを使って色水をつくり始めると、Aちゃんも同じようにつくりますが2人のように濃い色が出ませんでした。AちゃんがBくんの色水を覗き込んでいると、Bくん「Aちゃん、その色の花は薄いからもっと濃い色の花を選んだ方がよいよ」と、色を見せ合いながらつくっていました。①「本の作り方ってどうなったのかな？」と尋ねると、Cくん「花びらは入ってなかったな」Bくん「手で取る？」と話していましたが、近くの友達がザルを使って漉している様子を見て「これや」と、紙コップに漉した色水を入れ、アイスの棒を差しました。Bくん「Aちゃんザル使ったら良いよ、できる？」と、声を掛けながら3人それぞれに色の違う色水をつくり、1日凍らせることにしました。

子どもの育ちや学び

このデザートおいしそう



ザルで漉そう



アイスの棒が動かないようにしましょう



アイスできた!



- ・本を見ていたところから遊びとつなげて考えられるようになりました。
- ・作り方や必要なものを本で何度も確認し、やってみたいという気持ちをもち続け、挑戦してみる姿につながりました。
- ・色水の作り方はこれまでの経験から分かっていますが、Aちゃんの選んだ花の色を見て、どんなものを選んだら良いのか声を掛ける姿が見られました。
- ・周りの友達の遊んでいる様子から花びらを取り除く方法を見付け、やってみることにしました。

保育者の思い

- ・今までは色水をつくることに楽しさがありましたが、次にどうしたいかという思いはあまり芽生えていませんでした。今回本を見て、『おいしそう』『綺麗』と話していましたが、「つくってみたい」という言葉を聞き、子どもの思いをどのように次につなげようかと考えていました。「色水を使ってみれば…」という子どもの言葉から、自分達で実現できる方法を考えているんだなと成長を感じ、3人のやり取りを見守るようにしました。
- ・今までの経験を活かし、色の濃さを出すにはどのようにしたら良いのか友達に声を掛ける姿に成長を感じました。
- ・子ども達が本に載っていたことを自分達でやってみようとする姿を大切に、『こんなことできたら良いな』という理想から『実現できた』という思いを味わってほしいと思い、本にかいていた作り方を一緒に振り返りながら見守るようにしました。

家庭だったら・・・

情報過多な時代の中で、子ども達は本やテレビ、スマホなど様々な媒体から情報を得ていますね。「どこでそんなことを知ったの？」と大人が驚かされることも多くあります。たくさんの情報の中から子ども達のやってみたいという気持ちと自分達の生活や遊びとつなげている姿を大切にしてください。自分達に必要な情報を取捨選択できるように時には声を掛けながら見守っていきたいですね。